

蒼天

Volume 14
2015.06.

京都造形芸術大学・京都芸術短期大学 瓜生山同窓会会報
編集・発行：瓜生山同窓会事務局 〒606・8271 京都市左京区北白川瓜生山2・116
<http://uridou.jp>

同窓会員の皆さまへ

今この「蒼天」がご自宅に到着して、封を破って取り出した1ページ目のこの文章をご覧いただいている皆様は、最近の流行で言うところの「意識高い系」ではないでしょうか？

発足以後13年にわたって同窓会員相互の学びの場を設け、絆を深め、また会員の制作支援を通して本学の発展に寄与すべく活動が続けてきた瓜生山同窓会。「蒼天」はその活動報告と、これからの活動予定と、ちよつと聞いていただきたい大学にまつわるアレコレをわずか8ページの誌面に詰め込んだ、多くの同窓会員の皆様にとっては受動的に一年に一度しか訪れない貴重な繋がりツールなのであります。

さあ！ この透明なポリ封筒を開封せずに表側から眺めている貴方、是非とも袋から取り出し、隅から隅まで眺めてみてください！ お望みの情報がどこかにあるかも知れませんが、もしかすると無いかも知れませんが、読んでくださった全ての方に何かしら有益な一文があるよう、私たちは心を込めてこの「蒼天」を作っています。

ひと時も休むこと無く流動的に変化し続け、新陳代謝を繰り返すことで永続的な成長を目指す京都造形芸術大学。そんな本学を別のステージから応援していこうという瓜生山同窓会もまた、どんどんとその形を変えながら成長を続けております。全国10ヶ所の支部と連携し、色々な試みを通して全ての会員に刺激を与え続けながら、新たな表現を通じて時代を切り開けるような組織を目指しています。

とまあ、難しい理屈は抜きにして、今年も「瓜同」の名のもとに気兼ねなく集い楽しむ中から、時代へのヒントを見つけ出そうではありませんか。藝術こそが世界を変えたと信じている全ての表現者たちの結節点となるべく、瓜同は今年も全力を尽くします。

共に瓜生山に学んだもの同士、限らない愛を込めて。

瓜生山同窓会 会長 菱田太郎

画計埤育陪
京晴彭研芸術大学

卒業埤埤埤

師弟席
2015
RESERVED

見開き対談
新道弘之先生を
訪ねる



見開き対談
新道弘之先生を
訪ねる

今回の師弟対談は、
染織コースを指導されていた
藍染め作家の新道弘之先生です。
京都府南丹市美山町の
ご自宅兼工房へおじゃましました。
寛政8年に建てられた茅葺きの民家で、
とても貴重な建物です。
二階のミュージアムでは
世界各地から収集された
藍染コレクションを展示されています。
先生のご自宅での対談は、
在職時の回想や
お互いの近況報告を交えながら
賑やかに行われました。

・新道弘之

(元京都造形芸術大学
美術工芸学科染織コース教授)

・穴吹佳代

(染織テキストスタイル1999年度卒業
瓜生山同窓会静岡支部長)

・北村奈世

(大学染織2001年度卒業
瓜生山同窓会庶務)

◆新道

久しぶりに会えてうれしいです、僕は何
から喋ったらいいのかわからんから、そ
ちらからお願いします。

◆穴吹

それでは……先生はいつから教員をされ
ていたんですか？

◆新道

京芸を卒業して、はじめは京都精華大学
の助手になりました。

◆北村

何を教えるに行かれてたんですか？

◆新道

染織やん！ あたりまえや。

◆北村

そうですね。(笑)

◆新道

まだ精華が短大だった頃です。こちらも
まだ若かったから、助手として採用され
たんです。実は自分の藍の仕事をやりた
くて、8年勤めて辞めてしまいました。
ところが縁があって、平成9年に京都芸
術短期大学で再び教壇にたつことになり
人生で合計15年教師生活をしました。

◆穴吹

長い！ やりたくなかったわりには結構
長く務めておられたんですね。(笑)

◆北村

精華はお誘いがあって、助手になられた
んですか？

◆新道

そうそう。お誘いがあって、なんとなく。
やっぱり、なんとなく先生になったんだ。
(笑)

◆穴吹

行ききの車の中で、たぶんそうじゃないか
なと二人で想像してたんですよ。

◆新道

でも、正直に言うと、教員はあんまり好
きではなかったなあ。先生の仕事って、
会議は多いし、入試の準備もあるで
しょ？ 本来の教える仕事に加えて雑用
が多いよね、学校に務めながら藍の研究
は両立できないと悩み、精華大の先生を
思い切って辞めてしまったんです。
それじゃ、辞めてからその後は何を？
フリーの貧乏作家になったんですよ！
うーん。
幸いにも画廊から声をかけてもらう機会
も次々とあったので、制作活動の傍ら、
藍の研究にのめり込みました。その頃か
ら天然染料を研究する海外の学者やアー
ティストとも交流がはじまりました。
へえー！
そうだったんだー。
伝統的な日本の藍染は海外の研究者に
とって非常に関心があります、国際会議
やシンポジウムで日本の藍を紹介するう
ちに、いつの間にか、作家、藍資料の蒐
集家、研究家として知られるようになって
しまったんです。
へえー。それじゃ、造形大には何年お勤
めになったんですか？
造形大には7年勤務しました。でも、やつ
ぱり自由人に戻りたくて定年前に辞して
しまいました。





◆北村

定年で辞めはったんかって思ってたんですけど、まさか藍の仕事が忙しくて辞められたとは。(笑)

◆新道

途中で放り出してしまっただけかとは思ってます……。

◆穴吹

私、卒業する時に先生にシンディゴボール一個くださいって言ったら、「アカン」って言われた思い出があります。

◆新道

ほんまに？ そんなこと言うた？

◆穴吹

言われましたよー！ そもそも、シンディゴボールはどういったきっかけでつくり始めたんですか？

◆新道

僕は麻や木綿、天然繊維が大好きなんです、糸を糸らしくみせる作品をつくりたいと考えてできたのがこの作品。布を染めるんじゃなくて、いろんな繊維を芯の上から巻付けて球体にしてから染めるんですよ。

◆北村

へええ。

◆新道

30年くらい前からつくり始めて、いまだにつくってる。手のひらの宇宙みたいでしょ。(手のひらに乗せながら)

◆穴吹

わあー！ ところで、先生はなんで今は美山で「ちいさな藍美術館」を設立されたんですか？

◆新道

話せば長くなるけどね、若い頃から、藍のフィールドワークで国内、海外に藍を求めて旅してきました。自分の勉強の為に、世界中から集めた藍資料だけど、今では手に入らない貴重な資料も多いので、皆さんに見ていただきたいと思って公開することにしたんです。大学を辞した後、ミュージアム・ミュージアムショップ・アトリエの三つが僕の新しい職場と

なった訳です。この暮らしは、自然に囲まれて四季が美しいし、ほとんど外出もせず、美術館を訪問してくれる人と藍談義を楽しんでいます。

◆北村

贅沢です！

◆穴吹

晴れた日を見たことがないけど、雨の時の景色もいいですね。向こうの山に雲がかかって、緑のコントラストが綺麗！

◆北村

庭に桜もあるしね。

◆穴吹

それじゃ、大学に務めていた頃もここから通われていたんですか？

◆新道

そうですね！ 授業が一時限の日は6時半に車で出発です。毎朝登校拒否。「行きたくない」ってストレスが！

◆北村

先生が登校拒否ですか！(笑)生徒が遅刻した時、「俺は何時に家を出てると思ってるんだ！」と怒ってましたもんね。「なんでお前らが遅れてくるんや、オレの家はもっと遠いねんぞ！」って。

◆新道

僕の染織の授業、みんなお友達みたいな感じで、楽しかったよなあ？

◆穴吹

楽しかったー!!

◆北村

制作してたら「何やってんの」って先生が横から聞いてきて。

◆新道

「自分の好きなことやれよ」ってな。(笑)

◆穴吹

合評の時の先生の評価のしかた、すごく面白かったよね。

◆北村

うん、合評でしょ。覚えてる、覚えてる。

◆穴吹

先生、ストレートなコメントばかりだね。作品を見終えたら、「わし好かん」って一言だけ。(笑)

◆穴吹

違う先生は「私は好き」って言うから、先生同士の意見が異なる。学生みんな

シーンとしちゃって。

◆北村

学生は間に挟まれてどうしようとオロオロ。(笑)

◆新道

いろいろありましたねえ……。僕の一言が突き刺さったのか、ふっと振り返ったら泣いている学生がいたなあ。

◆北村

いま先生が喋ってはるのを聞いてたら、当時の先生の言葉が色々と甦ってきた。

◆穴吹

でも「好き」って言われたらそれはすごい褒め言葉だったのよね。

◆北村

うんうん！

◆新道

芸術というのは、計算を間違えたら不正解となる数学とは違うでしょ。だから教員の評価っていうものはエエ加減なもので、絶対ではないよね、考えてみたら芸術を教えることはおこがましいもんだよね。

◆北村

先生、展覧会はもうされないんですか？

◆新道

人生って引き際が大切でしょ。実は、古稀すなわち70歳になった時に、もう俺は展覧会をやらない、オフアールも受けな

◆北村

いって自分自身に誓ったんです。この

◆新道

くらいの歳になると、いろんなことが見えてきて、人生は動から静へ……読みたい本、聴きたい音楽も一杯あるし……。

◆北村

そうなんです……。

◆新道

自分では展覧会はやらないって決めてた

◆北村

んだけど、作品は独り歩きするもので、

◆新道

最近も「転形期の作家10人展」という展

◆穴吹

覧会が京都の清流館で開催されて、精華

◆新道

大や造形大の卒業生がたくさん来てくれ

◆穴吹

て、わいわいと楽しかったですね。

◆北村

へえー！

◆新道

へえー！

◆穴吹

へえー！

◆新道

へえー！

◆穴吹

へえー！

◆新道

へえー！

◆穴吹

へえー！



◆新道

卒業してからも、こうして社会人として活躍している教え子が訪ねてくれるのは、

◆穴吹

ありがとうございます！ 私のことも覚えてもらってたんですね。

◆新道

個性のある学生やったから名前も顔も覚えてる。

◆北村

あら。(笑) そうでした？
だってそうでしょ？ (笑) 穴吹さんも個性のある学生やったから名前も顔も覚えてる。

◆新道

いいですねえ。

◆北村

学生にとったら、教えてもらった先生の名前や性格を覚えておくのは簡単だけど、教師にとって何百人という教え子を記憶するのは難しい。印象に残る生徒っていうのは、個性のある作品をつくっていた優等生か、手がかかるワルでしょうがない子。なぜか僕が今でも付き合っている生徒はワルの子が多いな。(笑) 奈世かて、今は一児の立派な母やけど、ヤンチャ娘やったなあ。

◆新道

ありがとうございます！ 信じられない出来事や。学校の教員もとくに辞めてるし、たいした社会貢献もしていないのに、こんな山奥に暮らす異端児にまで光が当たるなんてねえ！ でも、聞きつけた卒業生たちが集まってくれて、お祝いしてくれたのはうれしかったなあ。

◆北村

そう！ その話題を挙げようって思ってたんだって！

◆穴吹

ありがとうございます！！
ところで先生、京都府文化賞功労賞、おめでとございます！！

◆新道

精華大で教えた人には、もうお孫さんがいる人がいたりしてね、そういうのは嬉しいなあ。

◆北村

楽しそうー。

◆穴吹・北村

老教師にとってはうれしいもんです。特に芸術系の大学は教員も学生も個性が強いし、教員と学生という関係を超えて、色々な意味で面白いよね。今日は、わざわざこんなに遠い田舎までインタビューに来てくれてありがとう。

取材・構成・澤村茉莉
(準会員・歴史遺産学科4回生)



編集後記

今回も「蒼天Vol.14」を皆様にお届けすることができました。隅から隅まで読んでいただきましたでしょうか？ 瓜生山同窓会はこれからも同窓生と共に成長していきます。同窓会員の活躍が瓜生山同窓会をより強く大きくし、瓜生山同窓会の発展が本学の発展を支えていく、そんな素晴らしい未来に向けて一層頑張ってます。どんどんご意見をお寄せください。運営スタッフへのご参加もお待ちしております！

瓜生山同窓会会長 菱田太郎

2015年度「1級建築士学科Webコース」 「2級建築士学科Webコース」のご案内

資格取得講座を運営する日建学院（株式会社建築資料研究社）から、瓜生山同窓会 正会員を対象とした、「1 級建築士学科Webコース」「2 級建築士学科Webコース」の特別学費（受講費用の割引）制度を提案いただいています。

講座内容、学費、申込手続などの詳細につきましては、瓜生山同窓会ウェブサイト内のhttp://uridou.jp/event/campus/news_banner/ksknet/ をご覧ください。

